

日本鐵鋼協會第20回講演大會概況報告

(昭和13年10月自16日至17日)

今春大阪地方で秋季講演大會が開かれる事に内定したので現地では本部と協議の上下記の實行委員の手で諸般の準備をする爲實行委員會を5回開いた。

實行委員氏名

大會實行委員長	住友金屬工業株式會社	荒木 宏君
實行副委員長	日本製鐵株式會社	阿部 雅雄君
同	大阪帝國大學工學部	藤井 寛君
實行委員	大阪工廠	杉本 正邦君
同	同	長尾 武雄君
同	大阪帝國大學工學部	松川 達夫君
同	同	多賀谷正義君
同	同	岡田 實君
同	大阪製鐵株式會社	松島 清君
同	尼崎製鋼所	平岡 富治君
同	日本亞鉛鍍鋼業株式會社	小森 富作君
同	東京ロール製作所	吉弘 良夫君
同	大阪製鋼株式會社	高石 義雄君
同	大和製鋼株式會社	大崎善三郎君
同	中山製鋼所	森崎 晟君
同	久保田鐵工所	川端 駿吾君
同	日本製鐵株式會社	井上 順三君
同	同	松山 一馬君
同	大阪府工業獎勵館	高橋 清君
同	中山製鋼所	辻本壽貞夫君
同	大阪帝國大學工學部	上村 勝二君
同	同	山口 珪次君
同	住友金屬工業株式會社	藤堂 宗君
同	同	室井嘉治馬君

大會出席會員數

出席を申込みました會員	679名
講演第1日出席會員	422名
同 第2日出席會員	323名
工場見學出席會員 A班(申込數)	310名
B班(申込數)	264名

講演大會

會場 中央電氣俱樂部大講堂

2日間に36講演を行ふ爲に各講演時間を従來の25分より20分に短縮しなければならなかつた事は講演者にも聴講者にも甚だ不本意な所であつたが會場の都合で講演を2部に分て行へなかつたので止むを得なかつた。

講演大會第1日 昭和13年10月16日(日)午前9時開會受付、講演圖表係、幻燈掛、時間掛は阪大工學部及工業獎勵館からの委員補助15名の手で2日間行はれた。定刻 大會實行委員長荒木宏君の開會の辭に次で會長齋藤博士司會の下に講演は始められた。講演中プログラム記載のもと變更のあつたのは9番で同講演は小林佐三郎君と同所木村熊太郎君との共同研究になつたものであつた。又(16)番は都合で谷口悟君が講演された。

時間	講演番號	司會者
午前 9~10:40	1~4	齋藤會長
" 10:55~12:05	5~7	渡邊博士
午後 0:50~2:00	8~10	河村博士
" 0:15~3:50	11~14	川上博士
" 4:05~5:15	15~17	水谷博士

晝食は電氣俱樂部食堂でした。

通俗講演會

10月16日(日)中央電氣俱樂部大講堂に於て

先づ大會實行委員長定刻より約20分おくれで開會を宣し先づ日本製鐵株式會社常務取締役澁澤正雄君が我國製鐵業の展望を明快に述べられた。次で國民使節として先に獨逸に使した伍堂卓雄君立つて我國の現在に最も關聯のある獨逸産業の統制現狀について諄々と2時間近く講演され聴衆を魅了した。續いて伍堂氏の土産になる獨逸労働奉仕團及自動車専用道路に關する有益な發聲映畫を映寫、終りに齋藤會長が閉會の辭を述べられ盛會裡に會を終た。この日の參會者は約400名であつた。尙伍堂君が獨逸に於ける代用品(人造石油、合成ゴム及可塑物)の見本を持參されたので會場入口で觀覽に供した。(講演は後日本誌上に於て發表す)

通俗講演會開會之挨拶

日本鐵鋼協會第20回講演大會實行委員長
住友金屬工業株式會社取締役

荒木 宏

一寸御挨拶申し上げます、日本鐵鋼協會と申しますのは、本部を東京に置きまして、全國に約三千有餘人の會員を有する社團法人でございますが、其目的とする處は鐵・鋼の學術・並經濟上の諸問題を研究調査しまして、我國の斯界

事業の發達を期すると云ふのにあるのでございます。それで今回當大阪市に第20回目の講演大會を催しまして、今日及明日會員各自の研究を發表し討議をして居るのであります。此の機會に於きまして、會員外の皆さんにも鐵

鋼に関する理解を深めて頂きたいと云ふ趣意からしまして、一般の方を歓迎する講演會を催すことになりまして、今夕此處にお集りを願つた譯であります。就きましては講師としまして濞澤正雄氏及伍堂卓雄氏お二方にお願ひしました處が、快く御承諾を下さいまして、お二人共非常にお忙しい中を態々大阪まで御出で下さいました次第でございます。先づ第一に濞澤氏に御講演をお願い致すのでありま

す。同氏に就ては私から改めて申すまでもないのでありますが、目下日本製鐵株式會社の常務取締役として此の我國の鐵鋼業の盛衰の鍵を握て居られる方のお一人であります。斯う云ふ御方からして、我國の製鐵業に関するお話を承ると云ふことは、現下の時局に於て我々の最も關心を持つ問題と思ひますので、御清聴あらんことを希望致します。(拍手起る)

通俗講演會閉會之辭

日本鐵鋼協會々長 齋藤大吉
京都帝國大學名譽教授 工學博士

通俗講演會を終りまして後に、伍堂閣下のお持ちになりました映畫を拜見することになつて居ります。伍堂閣下には今朝お越しになりまして、今夜九時三十分の列車で直ぐ又お歸りになりまするので、簡単に此處でお禮を申し上げたいと思ひます。只今は此のナチスドイツが此の五ヶ年間に其國難を克服するが爲に如何に種々の方面に努力して居るか云ふことに付て種々の點を例を擧げて御説明下さいまして、私共に非常な感銘を興へられたことに付て深く感謝致す次第であります。一々細かいことに付ては時間がありませんで此處で申し上げますが、此處に一同を代表致しまして厚くお禮を申し上げます。(拍手起る)

尙ほ伍堂閣下並に濞澤氏御兩氏は時節柄東京に於て非常に御多忙にあらせられるにも拘らず、本協會の通俗講演會の爲に特に御來阪下さいまして、只今諸君のお聞きになりましたやうに我々に對して極めて有益に又良指針となりましたお話を承ることが出来まして私共一同御兩人に對して厚く感謝致して居る次第であります。(拍手)

拍手を以て御兩人に御禮を申し上げたいと思ひます。どうか。(拍手起る)

(午後九時十五分終)

後映畫ありて散會。

講演大會第2日 10月17日(月)午前9時

前日に引續いて熱心な會員諸氏の前で定刻から講演が行はれた。この日の司會者は下記の通であつた。

時 間	講演番號	司 會 者
午前 9 ~ 10:35	18~21	藤 井 博 士
10:50~12.00	22~24	井 上 博 士
午後 0:45 ~ 2:20	25~28	三 島 博 士
2:35 ~ 4.10	29~32	澤 村 博 士
4:25 ~ 6:00	33~36	荒木實行委員長

晝食は前日の通り俱樂部食堂で行た。猶 35 番海野博士の講演は氏の都合によつて「製鐵と燃料」なる演題に改められた。又講演番號 36 番は佐伯一郎君が講演された。斯くて2日に涉る講演大會も無事極めて盛會裡に齋藤會長の閉會の辭に終た。

晩 餐 會

10月17日(月、祭)中央電氣俱樂部大食堂に於て盛會裡に終た講演會に續いて同所で恒例の晩餐會を催した。この日の來賓出席者は(順序不同)、栗本勇之助氏、鉛市太郎氏、松崎伊織氏、尾藤加勢士氏、荒木宏氏、高橋清氏及見學工場代表者中の田中徳松氏、中山悦治氏(代理)、植松益市氏、久保田權四郎氏(代

理)、エス・イー・デスマー氏(代理)、阿部雅雄氏、北島安太郎氏、井上長太夫氏、大谷米太郎氏、高石義雄氏等外に實行委員、講演者を招待し出席會員共計140名の盛會であつた。宴進みデザートコースに入るや齋藤會長の挨拶に始まり別項所載のテーブルスピーチに一同歡を盡しなごやかな氣分の間に散會した。

支那事變の眞只中に拘らず豫期以上の多數の有益な講演に、見學に、又出席會員に稀に見る盛會裡に大會を終た事は本會の爲、延ひては技術報國の見地からも同慶にたえない。

第3日 10月18日(火)工場見學

當日は天氣快晴 數日來の雨模様を一掃し絶好の見學日和に恵まれたり。

今回の見學はA班大阪方面; B班尼ヶ崎方面の二班に分れ次の通り見學せり。其概況次の通り。

A 班 尼ヶ崎方面

昭和13年10月18日(火曜日)午前9時より阪神電車にて武庫川に參集する會員は第二大阪製鋼所及日本亞鉛鍍鋼業株式會社より派遣せられし社員數名の出迎を受け前記二社及尼ヶ崎製鋼所、大阪製鉄株式會社、東京ロール製作所五社の御好意により準備せられたる10臺のバスに約20名宛分乗し順次第二大阪製鋼所に向ふ。當日參集の會員は約250名にして武庫川に到着早くも東南方遙かに見學工場を望み同方面工場の林立せる煙突より立昇る黒烟を見其下